

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月18日
函館市立旭岡小学校

1 本年度の重点教育目標

質の高い教育による 学力の向上

2 本年度の取組の重点

① 健全な学級経営の確立	② 授業改善の徹底	③ 校内研修の充実
④ いじめ・不登校への対応	⑤ 命を大切にする心の教育の充実	⑥ 傾聴と共感
⑦ 体力・健康の向上	⑧ 生活習慣の適正化	⑨ 安全・健康教育の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を育む教育の推進	学校教育目標は子供・家庭・学校の実態を踏まえていたか。	a	更なる実態把握を図りつつ、教育活動を推進していく。	A	A	
	質の高い教育による学力向上を進めることができたか。	b	日々の授業改善に努め、基礎・基本の定着並びに、応用への拡充を図る。	A	A	読み・書き・計算の定着と、家庭学習の取り組み方の指導、習慣化について、引き続き小中で連携協力していく。
② 豊かな心を育む教育の推進	自分・他者を思いやる心を育む教育活動の推進を図ることができたか。	a	学校生活の中で、より具体的な場面における指導を充実していく。	A	A	
	道徳教育等を通していじめ未然防止等の教育活動を推進できたか。	a	児童に寄り添った指導を継続していく。言葉の持つ重みや影響力について指導していく。	A	A	相手の立場や思いを自分に置き換えて意見を述べてほしい。
③ 健やかな体を育む教育の推進	生活習慣の適正化を目指した取組を進めることができたか。	a	就寝時間と健康の関係の指導など、家庭との連携を図った指導を進めていく。	A	A	スマホの影響による生活リズムの乱れについては、中学校からでは依存度が高くなってしまい改善が困難なため、家庭との連携を含め、早期の対応が必要である。
	命を大切にする安全教育を進めることができたか。	a		A	A	
④ 学校における指導体制等の充実	教育目標の実現に向けて教職員が相互に連携し教育活動の推進を図ることができたか。	a		A	A	
	学校における業務改善に向けた取組を推進できたか。	a	業務内容や年間の活動を見通しつつ、業務の精選を図る。生成AI等の活用。	A	A	
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を進め、一体となった学校運営を推進できたか。	b	現状把握を十分に行うと共に、地域の方と積極的に連携したり、行事等を通して関わったりしていく。	A	A	持続可能なCSの取り組みについて、具体的に何ができるか、旭岡地区の実情に合った活動を、委員みんなで交流できればと思う。
	郷土に愛着や誇りをもてる学習活動の工夫を図ることができたか。	a	各学年の学習計画を見直しつつ、地域での活動や地域人材を活用した授業などを取り入れていく。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

